



## 功績・功労をたたえて

● 令和3年度地域文化功労者表彰  
青木 順一さん



青木順一さん（温江）が、11月1日、文部科学大臣から地域文化功労者表彰を授与されました。

青木さんは、平成6年から与謝野町文化財保護委員として、また平成17年から京都府文化財保護指導委員として現在も文化財保護に大きく貢献されています。また、与謝野町語りべの会の会長でもあり、歴史観光ガイドとして現在も活動され、平成30年には京都府教育功労者表彰を受賞されました。今回は、その永年にわたる地域文化振興への功績が認められ受賞となりました。永年のご尽力に心から感謝申し上げます。

### ● 第43回少年の主張京都府大会

## 京都府教育委員会教育長賞を受賞

鈴木 水晶さん（加悦中3年）



9月23日、京都府青少年育成協会主催「第43回少年の主張京都府大会」が本願寺聞法会館で開催され、加悦中学校3年の鈴木水晶さんが京都府教育委員会教育長賞を受賞されました。

京都府大会では、昨年、与謝野町子ども発表会で発表した「マリオじいちゃん」を発表。一緒に暮らす祖父には肢体不自由や視力障害がありながら、幾度も大変な目にあっても元気に復活し、いつも前向きに暮らしている様子をテレビゲームの「マリオ」のようだと表現。「障害のある人も幸せに暮らせる社会にするには、小さなことでも意識して相手の立場に立って考え方行動することが大切」と作品への思いを話してくれました。

### ● 日中悠久平和祈願祭 平和への願いを込めて

10月31日、京都府日中友好協会主催「日中悠久平和祈願祭」が道の駅シルクのまちかや敷地内にある慰靈碑前において開催されました。

太平洋戦争中、大江山ニッケル鉱山へ強制連行された中国人のうち12人が過酷な労働の下で帰らぬ人となりました。この祈願祭は、その方々を慰靈するため、戦後まもなく地元滝区の有志により慰靈の祭事が行われ、旧加悦町日中友好協会を経て、現在では京都府日中友好協会に引き継がれ、今回で76回目を迎えました。



日中悠久平和祈願祭の様子

### ● 人権問題を考えるつどい

## 加害者や被害者になる可能性をもっている

11月9日、与謝野町人権教育・啓発計画推進本部主催による「人権問題を考えるつどい」が知遊館で開催されました。

フリーランサーで記者の薮本雅子氏を講師に迎え「ハンセン病に学ぶ～コロナ差別といじめ～」と題して講演。日本テレビアナウンサー時代に携わったハンセン病取材から見えてきた人権侵害に加え、新型コロナウイルス感染症による差別等から「差別（いじめ）とは、悪くないのに、悪いとする（される）こと」などを指摘。最後に「コロナ差別も誰もが加害者や被害者になる可能性を持っている」と参加者に語りかけました。



講演する薮本氏

### ● おそとでおはなし会 みんなで描いた「あもおがむ先生」

11月14日、「給食番長」などの作品で知られる絵本作家よしながこうたくさんを招き、「おそとでおはなし会～絵本作家よしながこうたくさんライブペイント&絵本ライブ～」が阿蘇シーサイドパーク等で開催されました。

ライブペイントは、子どもたちと一緒に「ヘン



よしながこうたくさんと参加者で描いた「あもおがむ先生」

### ● 京都府域展開アートフェスティバル

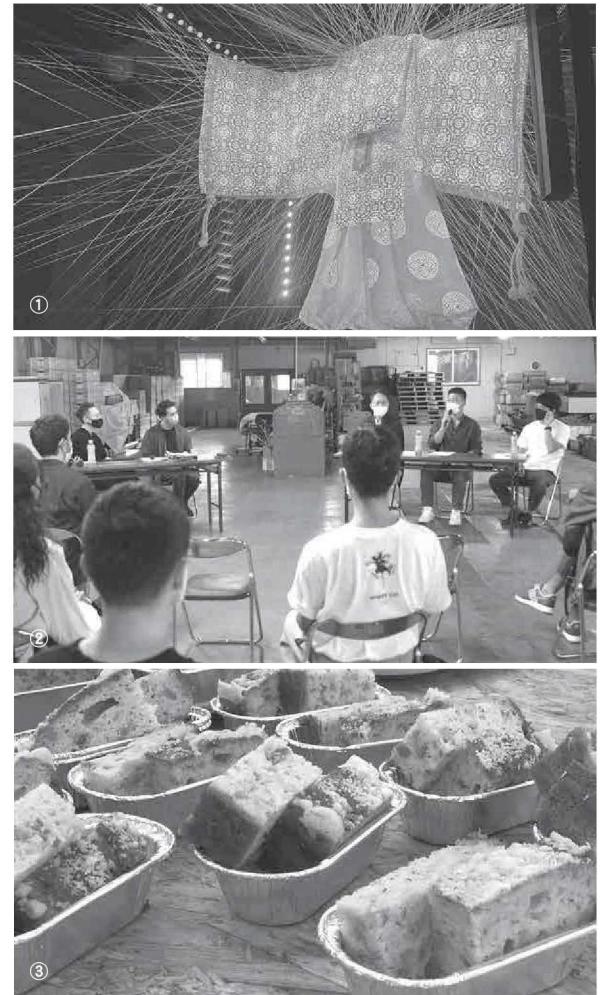
## 芸術の秋・食の秋を満喫

9月24日から京都：Re-search 実行委員会により開催されていた京都府域展開アートフェスティバル「ALTERNATIVE KYOTO -想像力というく資本>」が11月7日に閉幕。与謝野町を含む府内6市町で開催され、アーティストが地域に滞在しながら各自が設定したテーマに沿い、地域の風土や歴史等の調査を行い完成させた作品の展示や関連イベントが行われました。

与謝野町のコンセプトは「境界」。年齢や性別、地域などあらゆる境界や垣根を超えた体感イベントとして展示と食を中心に展開されました。旧加悦町役場庁舎では、アートユニットANOTHERFARM（アナザーフーム）が「光るシルク」で製作した能装束が展示され、ブラックライトを当てると光る、普段では目にすることのない作品を見ようと、町内外から800人が来場。また、株式会社細尾代表取締役社長の細尾真孝氏を招き地元織物事業者とのトークセッション（10月16日）や、京都市で店舗を構えるRestrauntKokeのオーナーシェフ中村有作氏による地元食材を使った体感イベント（11月6日・7日）が行われ、参加者は「芸術の秋・食の秋」を満喫していました。

テコキャラ」を描くよしながさんの即興イベント。今回のテーマは「阿蘇シーサイドパークの新しいキャラクターを描こう」。約120人の親子連れが参加し「頭や胴体、手足は何にする?」「色は何色にする?」などを子どもたちに尋ね、それを元に子どもたちと一緒によしながさんダイナミックな筆使いで絵を描き上げ、完成したキャラクターは「あもおがむ先生」。ユニークなキャラクターとなりましたが子どもたちは大喜び。完成したキャラクターの前で記念撮影する姿が見られました。

続いて行われた絵本ライブには事前申し込みの約60人が参加。よしながさんの代表作「給食番長」に加え、その幻の原案「真・給食番長」を独特のパフォーマンスに加え、博多弁でのパワフルな読み上げに子どもも大人もよしながさんに釘付け。会場は笑いに包まれ、参加者は絵本作家と過ごすひとときを満喫していました。



① 旧加悦町役場庁舎で展示された光るシルクで製作された「能装束」

② 真井織物の工場で開催されたトークセッション「境界のない会話」

③ 地元食材で作られたスナック